

奈良女子大学古代学学術研究センター 研究会

大和の山々と飛鳥・藤原・平城京

和田萃氏

(京都教育大学名誉教授)

『古事記』や『日本書紀』を見ると、三輪山は大物主神のいる神山と語られ、雄略天皇は葛城山で一言主神に出会っている。このように大和には、神がいるとされ、神聖視される山々が多くあった。

そして天武5年5月には、飛鳥の南方にある南淵山と細川山での樹木の伐採を禁じて、その清浄を保とうとし、『万葉集』に収められた「藤原宮の御井の歌」の中では、香具山・畝傍山・耳成山という大和三山と吉野の山が、藤原宮の四方にある山として詠み込まれている。平城の地も、遷都の詔の中で「三山鎮めをなし」と述べられ、三山の守る地勢が都として選ばれた理由になっている。これらのことから、山々が宮都と密接な関係を持っていたことがうかがえる。

そこで大和の地で神聖視、特別視された山々には、どのようなものがあったか、そしてそれらは飛鳥・藤原京・平城京という宮都といかなる関係にあったのか、ということについてお話を伺う。

日時：10月5日（金）16:30～

会場：奈良女子大学

文学系N棟 101 教室

参加費は不要です。参加をご希望の方は準備の都合上、Fax. あるいは e-mail でご連絡いただけますと幸いです。



連絡先：奈良女子大学古代学学術研究センター

Tel. Fax. 0742-20-3779 e-mail kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp

共 催：科学研究費補助金「古代都城・都市をめぐる環境論」

研究グループ（代表者：館野和己）